

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
専門学校岡山情報ビジネス学院		昭和61年7月26日		学院長 三村 光		〒 700-0024 (住所) 岡山県岡山市北区駅元町1番4号 ターミナルスクエア内 (電話) 086-224-2336			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人 三友学園		昭和61年7月26日		理事長 池田 基熙		〒 700-0024 (住所) 岡山県岡山市北区駅元町1番4号 ターミナルスクエア内 (電話) 086-224-2336			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
工業	工業専門課程	国際ITシステム学科		令和 2(2020)年度	-	令和 5(2023)年度			
学科の目的		日本国内はもとより母国や海外で活躍できるシステムエンジニアやプログラマー、システムオペレーターなどの実践的な技術や知識を持ったITエンジニアの育成を目指す。併せて、日本企業で就職する際に必要とされる日本語能力や日本におけるビジネスコミュニケーションスキル等を身につけた人材を育成する。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		【取得可能な資格】日本語能力試験N1／N2／N3 文章読解・作成能力検定3級・4級 情報処理技術者能力認定試験3級 Java™プログラミング能力認定試験 C言語プログラミング能力認定試験 2次元CAD利用技術者試験基礎 社会人常識マナー検定JapanBasic Excel®表計算処理技術認定試験3級 Word文書処理技能認定試験 他 【中退率】 7% 退学者2名(令和5年度 入学者含む)期初在籍者数28名 卒業者含む期末在籍者数26名							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		2,651 単位時間	1,220 単位時間	1,501 単位時間	140 単位時間	0 単位時間	
		単位		単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)					
60 人	34 人	34 人		100 %					
就職等の状況	■卒業者数(C)		17 人						
	■就職希望者数(D)		16 人						
	■就職者数(E)		16 人						
	■地元就職者数(F)		7 人						
	■就職率(E/D)		100 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		44 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		94 %						
	■進学者数		0 人						
	■その他								
	帰国								
(令和 5 年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)									
■主な就職先、業界等									
(令和5年度卒業生)									
【業界】IT業界									
【就職先】三和電子㈱、㈱シンニチロ、㈱アスパーク、新保電機工業㈱、NCプレコン㈱、都設計システム㈱、智頭電機㈱、大松精機㈱ 他									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体： 一般社団法人専門職高等教育 受審年月： 平成31年2月 評価結果を掲載したホームページURL https://www.oic-ok.ac.jp/assets/document/about/2019.pdf								
当該学科のホームページURL	https://www.oic-ok.ac.jp/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A：単位時間による算定)								
	総授業時数				2,861 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				140 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				0 単位時間				
	うち必修授業時数				2,651 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				140 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				0 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				105 単位時間				
	(B：単位数による算定)								
	総授業時数				単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位				
	うち必修授業時数				単位				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				0 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				2 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				1 人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人				
	計				3 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				1 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

IT技術者として、日本国内および母国や海外で活躍できる実践的な技術や知識を持ち、日本企業で必要とされるビジネス日本語力やコミュニケーション能力を備えた人財の育成を目指す。そのために、日本での留学生採用動向やシステム開発技術、また就労ビザ取得についての知見のある方々に教育課程編成委員を依頼し、日本企業での採用実状やシステム開発と求められるスキル等について意見や提案をいただき、カリキュラム・授業計画等に反映させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

留学生が日本で就労ビザを取得し、就職できるようなIT技術者育成のために、システム業界関係者、就労ビザ取得および岡山情報ビジネス学院関係者で構成された「教育課程編成委員会」を岡山情報ビジネス学院内に設置する。年間2回以上開催される委員会にて教育課程の編成に向けた意見・助言等を受けカリキュラム等の開設・改善・工夫等を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
岡崎 博之	岡山ユネスコ協会 監事	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	①
瀬尾 法行	カシスコミュニケーション株式会社 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
芳原 慶真	コーセーエンジニアリング株式会社 総務部 部長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
鳥津 学	トリツ機工(株)株式会社 業務部総務係長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
妹尾 潤	専門学校 岡山情報ビジネス学院 教務課長補佐(ITエンジニア学科群)	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	—
難波 芳子	専門学校 岡山情報ビジネス学院 国際ITシステム学科 学科長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(3年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年9月4日 16:00～18:00

第2回 令和6年1月24日 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・留学生が、日本で働く上で重要になってくるのは、日本語力である。ITの知識・技術について基礎を修得していれば、入社してから社内で教えることはできる。そのため、JLPTの取得以外で日本語力が向上できる体制を作ってはどうか。→今年度第1回目の開催となるスピーチコンテストを実施。委員の方々に審査員を依頼した。また、日本への留学生の増加に伴い、IT業界だけでなくビジネス業界への就職希望者も増えていることを踏まえて、今後カリキュラム変更や学科名変更を考えてはどうか。→来年度よりビジネス系での就職も視野に入れたカリキュラムを編成し、学科名も変更することとした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

留学生が、日本のIT業界(システム開発系、Webエンジニア系、制御システム系、CADエンジニア系)で働くことを目的とし、技術者育成のため、上記4分野を中心とした企業と連携し、現場における業務を体験し、今後のシステム開発技術者としてのスキル向上を目指す。また、連携企業様についてはキャリア実習Ⅰでは、日本で働く体験をキャリア実習Ⅱでは上記4分野の中で1分野についての仕事で体験でき、その業界で活躍している方から業界に関する直接助言や協力が得られる体制をとることが可能な企業様を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 主に担任教員が実習内容の詳細について連携企業と受入の確認と調整を行う。実習期間中は学科教員が各連携企業を訪問し、学生の状況を確認するとともに、実習担当者と情報交換を行う。実習終了後には、実習担当者による学生の学修成果の評価と、実習日誌などをふまえ、担任教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
キャリア実習Ⅰ	実際の日本企業で実習することにより理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。	コーセーエンジニアリング株式会社、トリツ機工株式会社、株式会社日産サテリオ岡山
キャリア実習Ⅱ	専門分野である日本のIT企業で社会人経験をOJTとして積み、求められるスキルに対し、主体的に学習を通して、与えられた結果にコミットできる。	株式会社シンニチロ、株式会社イノテック、コーセーエンジニアリング株式会社、板野機工株式会社、有限会社ミト・ワークス、株式会社トスコ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 教員の資質向上や専門分野の知識向上を目的とし、学内研修・学外研修・自己啓発研修等の年間研修計画を立て、学科教員が受講する。また、研修受講後は、研修報告書の作成と他関係者に対する研修内容の共有を行う。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	留学生の地域での生活 ～多様性と多文化共生の社会～	連携企業等:	岡山ユネスコ協会
期間:	令和5年5月9日(火) 10:00～12:00	対象:	国際ITシステム学科教師
内容	岡山ユネスコ協会は、1994年の設立以来、世界平和運動、教育の国際協力である世界寺子屋運動、世界遺産の保護活動等に積極的に協力しており、国際理解教育への貢献を行っている団体であり、本学科の国際教育やVISA更新、生活支援サポート、企業・行政等の共同事業の企画・運営で本学科と連携している。今回の研修では、入学してきた留学生たちの地域での生活 支援や学びのサポートにおける注意点や配慮について知識を深める研修であった。		
研修名:	留学生教育研究会セミナー「日本語教育機関と高等教育機関との接続環境の変化と対応」	連携企業等:	一般社団法人 外国人留学生高等教育協会
期間:	令和5年11月16日(木) 15:00～17:00	対象:	国際ITシステム学科教師
内容	「留学生交流政策をめぐる最近の動向」、「専門学校・各種学校における教育の現状と展望」、「日本語教育機関に関する制度改正」についての研修であった。また、「日本語教育機関と高等教育機関との接続環境の変化と対応」についてのシンポジウムも行われた。		
研修名:	専門学校教職員向けセミナー「今こそ考える留学生支援-ポストコロナにおける新しい潮流の変化-」～ネパール学生急増にどう対応するか～	連携企業等:	一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会
期間:	令和5年8月24日(木)15:00～16:30	対象:	国際ITシステム学科教師
内容	コロナがおさまり、日本へ留学生が増加する中で新しい潮流の変化が起こっている。今までアジア圏を中心に中国や韓国、ベトナムといった国籍の留学生が多く留学してきていたが、コロナ以降、ネパールの学生が急増している。今後、専門学校での受け入れについてどう対応していくか、事例を踏まえての研修であった。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「志セミナー」赤磐市地域おこし協力隊 戸田洋美さん講演	連携企業等:	赤磐市地域おこし協力隊
期間:	R5年6月14日 10:00-12:00	対象:	教務課職員
内容	第一線で活躍されている方の姿勢や熱い想いに触れることで、自らの人生を切り拓く志を学ぶ。目的のために何ができるか、周りに協力してもらうために何を伝えるか。そして、諦めない！というマイルールを決して曲げないという講演。		
研修名:	LGBTQ研修	連携企業等:	一般社団法人にじ一岡山
期間:	R6年2月22日 13:00-15:30	対象:	全職員
内容	研修をきっかけに教職員一同、性的マイノリティ(LGBTQ)に関する知識を身につけ、正しい理解を得る。当事者の学生から相談を受けた際の適切な対応を可能とすることを旨とする。		

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	留学生就労の在留資格変更における注意点等について	連携企業等:	岡山ユネスコ協会
期間:	令和6年9月中旬予定	対象:	国際ITシステム学科教師
内容	岡山ユネスコ協会は、1994年の設立以来、世界平和運動、教育の国際協力である世界寺子屋運動、世界遺産の保護活動等に積極的に協力しており、国際理解教育への貢献を行っている団体であり、本学科の国際教育やVISA更新、生活支援サポート、企業・行政等の共同事業の企画・運営で本学科と連携している。今回の研修では、内定をもらった学生への就労ビザについてや日本での外国人雇用における就職支援の問題点等について知識を深める研修である。		
研修名:	専門学校教員におけるグローバル研修	連携企業等:	一般社団法人 全国専門学校教育研究会
期間:	令和6年8月21日～22日	対象:	国際ITシステム学科教師
内容	一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。留学生の就職、日本語力の定着等、留学生の課題となっている問題について他校との情報共有や解決に向けての方法を体系的に学ぶ研修である。		
研修名:	専門学校教職員向けセミナー	連携企業等:	一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会
期間:	令和6年8月～9月予定	対象:	国際ITシステム学科教師
内容	インバウンドが進む中、日本への留学生も増加しているが、日本語力の低下が懸念される。日本語学校を卒業した留学生に対する専門学校の受け入れについての対応をどのようにしていくかを事例を踏まえて考える研修である。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「志セミナー」株式会社ミアーズ 代表取締役 前村美樹さん講演	連携企業等:	株式会社ミアーズ
期間:	R6年6月13日 9:30-10:30	対象:	教務課職員
内容	業界をリードする経営者を講師に迎え、自身の経験を踏まえながら、「変化する時代に生き抜く力を身に付ける方法」「自身の力でキャリアをデザインする生き方」について講演いただく。自分自身の人生や社会課題の解決について考える機会とし、一人ひとりのやる気と行動の原点につなげていく。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価の評価結果について、学校関係者として卒業生、保護者とともに企業等による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高める。また、本校の教育方針である「即戦力となる人材育成」「ビジネスマンにふさわしい人格形成」「ニーズに対応したカリキュラム」に基づき、地域社会に貢献できる人材の育成に結び付けるために、関係者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ることを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受け入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の順守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

担任制、卒業生の社内での評価などは、良い評価をいただいたので、今後も退学防止などの課題に取り組んでいく。特に、教師の力量による差が、退学、就職などすべてに影響するため、その差を解消できるように教員研修を継続する。また、非常勤教師の採用も行い、学生サービスの充実を図る。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
守井 照久	税理士法人創明コンサルティング・ブレイン 代表社員	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
早崎 律貴	スマートスケープ株式会社 VX事業部 開発部 部長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	卒業生 企業等 委員
石崎 公生	株式会社アドボックスフォトグラフィ 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	PTA
山本 涉	医療法人和香会 倉敷スイートホスピタル 運営企画室 室長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
豊田 東	岡山国際ホテル 総支配人	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
真鍋 洋志	菅公学生服株式会社 取締役	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
山下 秀男	株式会社イケル 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
北牧 涼輔	NAYUG合同会社 代表	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
浦谷 友章	自衛隊香川地方協力本部 東讃地区隊長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
畑 嘉昭	株式会社トスコ 専務取締役	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等 委員
芳原 慶真	コーセーエンジニアリング株式会社 総務部長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
平野 彰一	社会福祉法人岡北福祉会 岡北学園 理事長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等 委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://oic-ok.ac.jp/assets/document/about/info/02--new.pdf>

公表時期: 2024/10/1

URL: <https://oic-ok.ac.jp/>
公表時期: 2024/6/1

授業科目等の概要

工業専門課程 国際ITシステム学科																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			言語基礎ⅠA (語彙・文法)	日本社会で働く上で必要な日本語の語彙・漢字の学習と文法を学習し、それぞれが目指すJLPTのレベルの語彙・表現、文法を身につけることができる。	1前期	66	4	○	△		○		○		
2	○			言語基礎ⅠB (読解)	読解分野について、各自のレベルアップを図るために読解の新しい文型を理解する。	1前期	60	4	○	△		○		○		
3	○			CAD 演習Ⅰ (3D)	TinkerCADを使って、3DCADの基本知識と技術を身につけ、図面を作成することができる。	1前期	30	2	△	○		○			○	
4	○			ビジネス実務Ⅰ	新入社員として必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力を習得する。	1前期	33	2	○	△		○		○		
5	○			パソコン基礎演習 (Word/Excel)	Word/Excelの基本的なしくみと機能を理解し、ビジネスで必要となる基本的なスキルを習得する。	1前期	32	2		○		○		○		
6	○			通訳Ⅰ	文法や作文力を学び、日本語の長文が書けるようになる。日本人学科の学生との合同授業を通して、あるテーマについてグループワークで意見交換を行い、発表をする。	1前期	32	2	○	△		○		○		
7	○			ペン字	履歴書やビジネス文書等で書く文字バランスを身につける	1前期	15	1	△	○		○			○	
8	○			Webサイト制作演習Ⅰ	HTML5、CSS3によるWebページ作成方法の基礎を理解する。	1前期	16	1	△	○		○			○	
9	○			日本語能力試験Ⅰ	日本語能力試験の語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題が理解できるようにする。	1前期	54	3	△	○		○		○		
10	○			労務管理	グローバル社会が進む中で、留学生が採用された企業において、安心、安全に働くことができ、企業内での活動が円滑にできるようにする。そのために労働基準法を中心とする関連法令を習得する。	1通年	32	2	○	△		○		○		
11	○			コンピュータシステムⅠ	コンピュータに関わる様々な基本原理や基礎技術について学習する。サーティファイ情報処理技術者能力認定試験3級の合格に必要なスキルを身につける。	1後期	62	4	○	△		○		○		
12	○			通訳Ⅱ	通訳Ⅰで学んだ、基本的な文章表現のルールの幅を広げ、豊かに表現し、文章の構造を意識しながら話す力とより高度な通訳スキルを身につける。日本人学科との合同授業の中で、意見交換を行い、発表をする。	1後期	32	2	○	△		○		○		

工業専門課程 国際ITシステム学科																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
13	○			言語基礎ⅡA (語彙・文法)	Iに引き続き、日本社会で働く上で必要な日本語の語彙・漢字の学習と文法を学習し、それぞれが目指すJLPTのレベルの語彙・表現、文法を身につけることができる。	1後期	45	3	○	△		○		○		
14	○			言語基礎ⅡB (読解)	Iに引き続き、読解分野について、各自のレベルアップを図るために短文、中文、長文の読解を身につける学習をする。	1後期	45	3	○	△		○		○		
15	○			システム制御演習Ⅰ	三菱メルウェアラダーソフトよりラダー言語のプログラミング技術を学び、理解できる。	1後期	15	1	△	○		○			○	
16	○			アルゴリズム概論	コンピュータの導入とプログラムの基礎となるアルゴリズムとデータ構造が理解できる。	1後期	45	3	○	△		○		○		
17	○			Webサイト制作演習Ⅱ	Iで学んだ基礎力を生かし、HPを完成させるために、必要な基本的専門知識や、情報伝達手段について理解し、主体的に学びを深められ、Webサイトが自分で作成できるようになる。	1後期	30	2	△	○		○		○		
18	○			ビジネス実務Ⅱ	新入社員として必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力を習得する。	1後期	30	2	○	△		○		○		
19	○			C言語プログラミング演習Ⅰ	C言語によるプログラミングを学び、自力でコーディング、コンパイル、デバッグを行い、実際にコンピュータを動かして問題解決ができる。	1後期	60	4	△	○		○		○		
20	○			ビジネス英語Ⅰ	地球の未来のために世界全体が共有している目標がSDGsであり、世界共通語である英語でSDGsについて考え、問題解決について英語で表現できるようになる。また、日本人学科との合同授業の中で、日本と母国のSDGsについて意見交換し、グループワークの中で意見をまとめて発表する。	1後期	30	2	○	△		○		○		
21	○			日本語能力Ⅱ試験	日本語能力試験の語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題が理解できるようにする。	1後期	50	3	△	○		○		○		
22	○			言語知識ⅠA (語彙・文法)	日本社会で働く上で必要な日本語レベルの語彙・文法を場面または機能に合わせて表現できる。	2前期	45	3	○	△		○		○		
23	○			言語知識ⅠB (読解)	様々なトピックの読解問題を通し、グループワークで文章読解と日本語のコミュニケーションの力を身につける。	2前期	45	3	○	△		○		○		
24	○			ビジネスコミュニケーション	日本のビジネスに必要な基本的な知識を身につける。敬語の意味や使い方を学習しながら、実際の会話で使う練習をする。日本人学科との合同授業において、あるテーマについてグループワークで意見交換を行い、発表ができる。	2前期	30	2	△	○		○		○		

工業専門課程 国際ITシステム学科																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
25	○			CAD演習Ⅲ	TinkerCADを使って、3DCADの基本知識と技術を身につけ、図面を作成することができる。	2前期	30	2	△	○		○			○	
26	○			キャリア実習Ⅰ	実際の日本企業で実習することにより理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。	2前期	50	1			○		○	○		○
27	○			プレゼンテーション技法Ⅱ	PowerPointを使用してスライドを作成し、キャリア実習報告会で発表ができるようにプレゼンテーション力を身につける。	2前期	15	1	△	○		○		○		
28	○			C言語プログラミング演習Ⅰ	C言語によるプログラミングを学び、自力でコーディング、コンパイル、デバッグを行い、実際にコンピュータを動かして問題解決ができる。	2前期	45	3	△	○		○		○		
29	○			コンピュータシステムⅡ	情報処理検定3級の範囲の基礎を理解し、問題を解くための理解を主体的に行うことができる。	2前期	45	3	○	△		○		○		
30	○			ビジネス英語	科学・技術・工学・芸術・数学に関する話題を扱った30秒程度の短いCNNニュースを題材として、身近な問題を英語で考え、日本人学科の学生との合同授業において、グループで問題解決を行い、発表することができる。	2前期	16	1	○	△		○		○		
31	○			経営マネジメント概論Ⅰ	企業活動、法務、経営戦略マネジメントについての基本的な知識を身につけ、専門用語を用いて会話ができる。	2前期	15	1	○	△		○		○		
32	○			経営マネジメント概論Ⅱ	基礎理論とアルゴリズム、コンピュータシステム、ハードウェア、ソフトウェアについての基本的な知識を身につけ、専門用語を用いて会話ができる。	2前期	30	2	○	△		○		○		
33	○			日本語能力試験Ⅲ	日本語能力試験取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。	2前期	54	3	△	○		○		○		
34	○			ビジネス実務Ⅲ	日本で働くために必要な日本の習慣やマナーについて理解し、実践できる。	2前期	30	2	○	△		○		○		
35	○			労務管理	グローバル社会が進む中で、留学生が採用された企業において、安心、安全に働くことができ、企業内での活動が円滑にできるようにする。そのために労働基準法を中心とする関連法令を習得する。	2通年	32	2	○	△		○		○		
36	○			言語知識ⅡA（語彙・文法）	Iに引き続き、日本社会で働く上で必要な日本語レベルの語彙・文法を場面または機能に合わせて表現できる。	2後期	30	2	○	△		○		○		

工業専門課程 国際ITシステム学科																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
37	○			言語知識ⅡB (読解)	Iに引き続き、様々なトピックの読解問題を通し、グループワークで文章読解と日本語のコミュニケーションの力を身につける。	2後期	30	2	○	△		○		○		
38	○			ビジネス実務Ⅳ	日本で働くために必要な日本の習慣やマナーについて理解し、実践できる。	2後期	60	4	○	△		○		○		
39	○			C言語プログラミング演習Ⅱ	サーティファイC言語プログラミング能力認定試験3級に合格できる力を養う。Iで学んだプログラミング技術を更に磨き、学内プログラミングハッカソンで日本人学科（情シス、情スペ）の学生と同等に勝負ができる力を身につける。	2後期	60	4	△	○		○		○		
40	○			日本語能力試験Ⅳ	日本語能力試験取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。	2後期	50	3	△	○		○		○		
41	○			情報セキュリティ概論	データベース、ネットワーク、情報セキュリティについての基本的な知識を身につけ、専門用語を用いて会話ができる。	2後期	15	1	○	△		○		○		
42	○			CAD演習Ⅳ	実際の業務で使用するCADの図面を読むための、空間認識が図面ででき、基礎試験が取得できる。	2後期	30	2	△	○		○		○		
43	○			Javaプログラミング演習Ⅰ	C言語の知識を生かし、日本人学生と同じスピードで、新しいプログラミング言語が習得できる。	2後期	50	3	△	○		○		○		
44	○			Webサイト制作演習	ブラウザを利用してパソコン・タブレット・スマホ等の様々な環境で閲覧できるWebページが自分で構築でき、インターネットに公開できるようになる。日本人学科の学生との合同授業の中で、共同でホームページの作成を行う。	2後期	40	2	△	○		○		○		
45	○			システム制御演習Ⅰ	三菱メルウェアラダーソフトよりラダー言語のプログラミング技術を学び、理解できる。	2後期	15	1	△	○		○			○	
46	○			キャリア実習Ⅱ	専門分野である日本のIT企業で社会人経験をOJTとして積み、求められるスキルに対し、主体的に学習を通して、与えられた結果にコミットできる。	2後期	90	3			○		○	○		○
47		○		ペン字上級	1年生で学んだ美しい文字を書くことの大切さをより深く理解する。ひらがな、カタカナの成り立ち、漢字基本点画、部首、筆順の解説により、バランスのとれた字形（行書体も含む）を学ぶ。また、筆ペンの使用も学ぶ。	2後期	15	1	△	○		○			○	
48		○		ビジネス英語	ビジネスの場で簡単な英語が話せる力や、メール文章を書く能力を身に付ける。	2後期	15	1	○	△		○			○	

工業専門課程 国際ITシステム学科																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
49		○		エクセル上級	Excel2019（Expertレベル）を活用し、実務で使える資料作成能力を身につける。	2後期	15	1	△	○		○		○		
50		○		医療事務	医療保険の仕組みを理解し、簡単な医療費の計算を学ぶ。	2後期	15	1	△	○		○		○		
51		○		表現	幼児期から親しんできた言語環境構成の基礎や作品製作技術を学んだり、体験したりすることを通して、自己表現やコミュニケーション力を身につける。	2後期	15	1	△	○		○		○		
52		○		RPA実習	業務において、ミスをなくし効率的な業務が出来るように、作業自動化ツールを用いた自動化の初歩を学び、プログラムの思考力を養う。	2後期	15	1	△	○		○		○		
53		○		情報リテラシー	業務で役立つWindowsの便利な機能や、社会に出てから必要となるセキュリティ知識やAIの活用方法などについて学ぶ。	2後期	15	1	△	○		○		○		
54		○		データマーケティング	データを根拠に考え、新しいアイデアを考案するための方策を学ぶ。Excelを活用した分析手法についても修得する。	2後期	15	1	△	○		○		○		
55		○		ファイナンスプランナー	身近なお金の知識やこれから必要になるお金の知識を学ぶ。投資など資産運用について基本的な知識を身につける。	2後期	15	1	○	△		○		○		
56		○		法律リテラシー	実社会で役立つ、民法・行政法等の知識を事例を交えて学ぶ。身近で起こりうる法律問題について結論の方向性が見通せるようになることを目指す。	2後期	15	1	○	△		○		○		
57		○		フラワーアレンジメント	ブーケ、ブートニア、ヘッドフラワー、会場装花を製作する。	2後期	15	1	△	○		○			○	
58		○		ゲームプログラミング	ゲーム制作を通じてプログラミングを体験することで、順序立てて物事をとらえる考え方を身につける。	2後期	15	1	△	○		○		○		
59		○		広告映像	会社の広報SNSなどに必要な写真の撮影、および動画制作を通して、情報や魅力をわかりやすく伝える力を身につける。	2後期	15	1	△	○		○		○		
60		○		ビジュアルデザイン	デザインを使い、伝えたい情報を視覚的に表現する力を身につける。	2後期	15	1	△	○		○		○		

工業専門課程 国際ITシステム学科																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
61		○		世界事情	グローバル化の時代、将来国内外問わず、外国人とともに仕事することを念頭に、テーマ別国際事情の講義とグループワークやディスカッションを通して、国際的視野を身につける。	2後期	15	1	△	○		○		○		
62	○			ビジネス実務Ⅳ	社会人生活に向けて、必要な基礎的素養や、社会人スタンダードを理解し、実践できる。就職試験SPIの問題を学習する。	3前期	55	3	○	△		○		○		
63	○			日本語能力試験Ⅴ	日本語能力試験取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題が理解できるようになる。	3前期	54	3	△	○		○		○		
64	○			実践ビジネスコミュニケーションⅠ	日本で就職してから実際の場面で役に立つマナーやルールについて理解し、実践できる。日本人学科との合同授業において、グループワークの中で意見交換ができるようになる。	3前期	45	3	△	○		○		○		
65	○			Javaプログラミング演習	学内プログラミングハッカソンで日本人学科（情シス、情スベ）の学生と同等に勝負ができる力を身につける。サーティファイJavaプログラミング能力認定試験3級に合格できる力を養う。	3前期	60	4	△	○		○		○		
66	○			データベース演習	リレーショナルデータベース(RDB)の基礎、SQLの基本的な文法及び、正規化の考え方を学習し、SQLでRDBを操作することができる。	3前期	30	2	△	○		○		○		
67	○			Java Script演習	JavaScriptの基本的な文法を習得し、JavaScriptを用いてブラウザの表示を自動的に変更するアプリケーションを作成できる力を身につける。	3前期	30	2	△	○		○		○		
68	○			IT実践演習	CAD利用技術者試験合格に向けて、CADと製図の基本技術を身につけることができる。	3前期	100	4	△	○		○		○		
69	○			IT企業リテラシーⅠ	就職に向けて、自分の将来を考えたうえで、職種会社選択をし、必要な情報を集め、主体的にエントリーや面接に臨むことができる。	3前期	49	3	△	○		○		○		
70	○			経営マネジメント概論Ⅲ	基礎理論とアルゴリズム、コンピュータシステム、ハードウェア、ソフトウェアについての基本的な知識を身につけ、専門用語を用いて会話ができる。	3前期	30	2	○	△		○		○		
71	○			システム制御演習Ⅱ	ラダー言語の基礎をもとに、プログラムを組み、実際にシステムを動かすことができる。	3後期	16	1	△	○		○		○		
72	○			CAD演習Ⅲ	実際の業務で使用するCADの図面を読むための、空間認識が図面ででき、基礎試験が取得できる。	3後期	30	2	△	○		○		○		

工業専門課程 国際ITシステム学科																	
分類				授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択	講義						演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任			
73	○			接遇演習	日本でのビジネスシーンで、日本固有のしきたりや、企業内での来客対応などについて学び、日本での社会人生活に必要な知識や習慣を理解できるようにする。テーブルマナーを理解し、実践できる。	3後期	45	3	△	○		○		○			
74	○			IT企業リテラシーⅡ	「システム開発」「Webシステム」「システム制御」「CAD」の各分野について、就職先の職種に合った分野の学習を主体的に進め、自らが働く会社や業界について、研究を深め、プレゼンテーションができる。	3後期	50	3	○	△		○		○			
75	○			コンピュータシステムⅢ	技術戦略マネジメント、システム戦略、開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントとシステム監査についての基本的な知識を身につけ、専門用語を用いて会話ができる。 ITパスポート試験の合格を目指して、効率よく学び、効率よく理解をしながら、学習を進めることができる。	3後期	90	4	○	△		○		○			
76	○			ビジネス実務Ⅴ	日本で就職するための社会人生活に向けて、必要な基礎的素養を身につける。また、社会人としての規則やルールのスタンダードを理解し、実践できる。	3後期	45	3	○	△		○		○			
77	○			実践ビジネスコミュニケーションⅡ	日本で就職してから実際の場面で役に立つマナーやルールについて理解し、実践できる。日本人学生との合同授業において、積極的に意見を述べ、協働して発表ができる。	3後期	31	2	△	○		○		○			
78	○			卒業研究	3年間の集大成として、日本人学生との合同授業で「ビジネス系」×「情報系」でそれぞれの業界の抱えている問題を解決することを目標としてOIC全体で学科コラボに取り組み他学科と協働する。	3後期	110	4	△	○		○		○			
合計						64	科目	2651 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：①必修科目及び選択必修選択科目の成績がC評価以上	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：【No. 1-21】1 年次履修科目 52単位(814単位時間) 21科目	1 学期の授業期間	16 週

（留意事項）

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。